白い酋長（1951）

LO SCEICCO BIANCO
THE WHITE SHIEK［米］
COURRIER DU COEUR
LE SHIEK BLANC

メディア 映画
ジャンル コメディ　ドラマ
製作国　イタリア
色彩　B&W
時間　85分
公開情報 劇場未公開・ビデオ発売

【解説】

最高に楽しいフェリーニ、初期喜劇の傑作。彼の持ち味のすべて－－快活なおしゃべりに、子供じみた幻想性、素朴なドタバタ趣味に、宗教的モチーフ、そしてそれらが醸し出す透明な叙情－－がバランスよく配され、忙しい現代にも通用する、一服の清涼剤的作品である。“白いシーク”という連続活劇の歌う主演スター、リボリに夢中のワンダは、ファンレターの返事を貰って気もそぞろ。せっかくの新婚旅行で来たローマだが、最大の目的は、一目リボリに会うこと。着いて早々、夫の立てた分刻みのスケジュールの空白に、撮影所のリボリを訪ねるワンダだが、彼女もトラックに乗せられてしまう。そして、図らずも代役で“忠実な女奴隷”として彼と共演し、有頂天となる。一方、夫イヴァンは押しかける親戚の応対に大わらわ。彼女は腹痛で寝ているということにし、その日だけはなんとかゴマかしたものの、夜になっても帰らないので、絶望しかける。ワンダはと言えば、“今の妻には薬を盛られて結婚を承諾させられた”と言うリボリと、大道具の小舟で沖に出て、甘い口説き文句を囁かれてうっとり。ところが、そこへ見物に来たリボリの妻が嫉妬して大変な騒ぎ。平謝りのリボリはすべてワンダのせいにしようとし、悲しんだ彼女はその場を抜け出して、帰りの車に乗り遅れるが、それでもどうにかローマにたどり着く。しかし、花婿に会わせる顔がなく、自殺を図るが、その河の水深は膝までもない。結局、翌朝、病院からの連絡でワンダを迎えたイヴァンは親戚一同との約束の法王拝謁に間に合い、教会の前で“あなたが私のシーク”だと囁く妻をぎこちなく抱き締めるのだった。イヴァンがワンダを捜し夜の町を徘徊する場面に娼婦役でＧ・マシーナがゲスト出演。火吹き芸人にあどけない喝采を送る、彼女の名は“カビリア”。なんと嬉しい“予告編”であろうか！

【クレジット】

監督	フェデリコ・フェリーニ	Federico Fellini
製作	ルイジ・ロヴェーレ	Luigi Rovere
原案	ミケランジェロ・アントニオーニ	Michelangelo Antonioni
脚本	フェデリコ・フェリーニ	Federico Fellini
撮影	アルトゥーロ・ガッレア	Arturo Gallea
音楽	ニーノ・ロータ	Nino Rota
出演	レオポルド・トリエステ	Leopoldo Trieste
	ブルネラ・ボーヴォ	Brunella Bovo
	アルベルト・ソルディ	Alberto Soldi
	ジュリエッタ・マシーナ	Giulietta Masina

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.